

令和7年9月25日

南の風 554

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

553号の続きです。

大事なのは、パスをもらえないというだけで諦めてサポートの動きをやめてはならないということです。サポートする選手は、ディフェンスをはっきりとシールするか、より強くミートアウトするなど、パスが受けられるような次の動きを確実に行うべきです。ここまで「守備から攻撃の局面」トランジションオフェンスについて書きました。

特に U12～15のカテゴリーのトランジションオフェンスでは、かなりの頻度でトランジションディフェンスの戻りが遅かったり、マッチアップが十分ではなかったりすること（自然にノーマークができている）が見られます。ですからそこを見逃さず攻めることができれば、チャンスが広がります。クリエイティブ（ハーフコートオフェンス）に移行する前に、攻め切ることがあることに気づくことが重要です。トランジションの攻めを練習やゲームの中で取り組んでください。

このシリーズはここで終了とします。ここからは私が6月におこなった、『育成年代バスケットボール指導者講習会』の内容をご紹介します。

1 バスケットボール競技の特性 I

スポーツは「個人」と「団体」でおこなうものがあります。またもう一つの分け方として、「競争」的なものと「闘争」的なものがあります。

◇個人競争型・・・陸上競技 水泳競技など ◇団体競争型・・・陸上や水泳のリレー競技など
○個人闘争型・・・柔道 レスリング ○サッカー ラグビー バスケットボールなど

①競争的スポーツと闘争的スポーツの違い

☆「競争」的スポーツ → 磨いた技術を発揮できる。個人であれ、団体であれ自分があるいは自分たちが練習した技術を試合や大会で発揮できる。技術を発揮する権利を与えられている。

☆「闘争」的スポーツ → 磨いた技術が妨害される。個人でも団体でも相手がやろうとすることを邪魔することができる。妨害する権利を与えられている。

バスケットボールは相手を邪魔する権利があります。よって相手が邪魔してくる前提で練習しなければなりません。（どういう邪魔をされるかと言うことを考えて練習する）

- ・相手がつかない練習や、一人でやる練習を積み重ねても上達しません
- ・妨害される前提で技術を学ぶことが重要です

②「競争」的思考態度と「闘争」的思考態度

☆「競争」的思考態度では

- ・言われた通りに動く
- ・練習してきた通りにやる
- ・セットプレーを遂行する

これらは競争的思考態度であり 闘争的思考態度ではない

※相手の妨害を考えてないと失敗する

続きは次号にします